

# SUPER スーパープレミアム PREMIUM

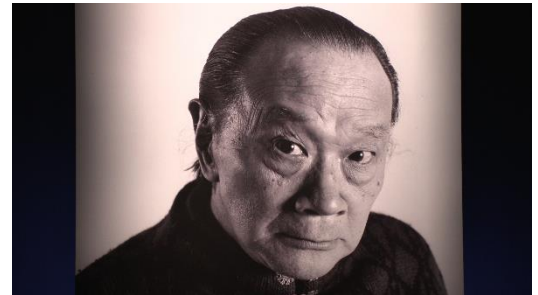
## ドキュメンタリードラマ

### 「よみがえる太陽の塔 “閉塞する日本人”へのメッセージ」

3月19日（月）午後9：00～11：00

（BSプレミアム）

大阪万博からおよそ半世紀を経て、あの「太陽の塔」が蘇った。外観はそのままに、内部を作り直すという1年半に及ぶ再生プロジェクト。岡本太郎による世界にただひとつの「変わった形の作品」ゆえに乗り越えなければならぬさまざまな課題などに、チームは挑んだ。太陽の塔は、岡本太郎が「資本主義と科学技術の祭典」である万博の真ん中に突き刺した「縄文の怪物」。その怪物を太郎に代わって「生き返らせる」とはどういうことか。戦後の高度経済成長の時代に、縄文にいち早く注目し、日本人へのメッセージを研ぎ澄ませた太郎の日々をドラマで再現。当時太郎が考察を深めるために訪ねた各地を再び取材すると、閉塞感をかかえる今の日本人へのメッセージが浮かび上がってきた。



## 完全中継「復活 太陽の塔」

### 第1部 これが生き返った“縄文の怪物”だ

3月21日（水）午後7：00～8：00（BSプレミアム）

1年半に及ぶ工事を経て再生した「太陽の塔」の内部からの生中継。第1部は「生命の樹」と呼ばれる内部の造形をじっくり鑑賞。製作過程でのさまざまなエピソードも織り交ぜつつ、見どころを紹介する。岡本太郎があえて万博に突きつけた「縄文の怪物」だという太陽の塔。その内臓を表すという真っ赤な壁や、太古の生物から人類まで、200体を超える生物の造形に込められた意味をひもといていく。しかも今回の「再生」は岡本太郎の作ったものの単なる再現ではない。どこがどう変わったのか。高さ数十メートルの巨大作品を堪能する。

### 第2部 万博の熱狂とはなんだったのか

3月21日（水）午後8：00～9：00（BSプレミアム）

太陽の塔の内部から生中継で伝える番組の第2部は、1970年の大阪万博のパビリオンなどをバーチャルリアリティーで体感しながら、万博の熱狂とはなんだったのか、ゲストとトークで深めていく。外国人が珍しかった時代に、さまざまな国の人が行きかった太陽の塔のまわりの広場。長蛇の列ができたアメリカ館の、一番人気だった「月の石」。日本や日本人が最も元気だったといわれる時代があって、その後失われたものは何か。当時誰もが夢見た「月移住」がいまだに実現していないことをどうとらえるか。今の時代の「行き詰まり感」の根っこにあるものを浮かび上がらせながら、太陽の塔が復活する意味を改めて語りあっていく。

出演：平野暁臣（岡本太郎記念館館長）、浦沢直樹（漫画家）、藻谷浩介（日本総合研究所主席研究員）  
小橋めぐみ（女優・19日放送のドキュメンタリードラマの岡本敏子役）